

# 武蔵野市すくすく泉事業採択・評価委員会

(令和4年度)

## 議事録

日時：令和5年3月2日（木）

場所：オンライン開催

## 武蔵野市すくすく泉事業採択・評価委員会（令和4年度）

○日 時 令和5年3月2日（木） 午後6時～午後7時30分

○場 所 オンライン開催

○出席委員 箕輪委員長、吉田委員、松田委員、鶴川委員、藤野委員、勝又委員

○事務局 子ども家庭支援センター担当課長、子ども育成課長ほか

### 1 開 会

#### 【事務局】

皆さん、こんばんは。開会に先立ちまして、事務的なご説明を申し上げます。私はこの委員会の事務局を務めます、子ども子育て支援課子ども家庭支援センター担当課長の石川と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、本会議は記録用に録音をさせていただいております。あらかじめご了解いただければと思います。

それでは、会議の前に配付資料についてご確認をお願いいたします。

《資料確認》

#### 【事務局】

1年に1回の委員会になりますので、委員の皆様にご挨拶と自己紹介と簡単なご挨拶をいただければと思います。資料1の委員名簿に沿った形でご紹介させていただきます。

では、箕輪先生からお願いします。

#### 【委員長】

皆さん、こんばんは。武蔵野大学の箕輪です。よろしくお願いいたします。

#### 【委員】

こんばんは。東京学芸大学の吉田と申します。よろしくお願いいたします。

資料1の「職」の欄の訂正をお願いしてもよろしいでしょうか。今、「総合教育学系」とあるんですけれども、「総合教育科学系」です。それから、「教育学講座」ではなくて、

「教育実践創成講座」です。

【委員】

せたがや子育てネットの松田です。よろしくお願いいたします。

【委員】

皆さん、こんばんは。公認会計士の鶴川と申します。よろしくお願いいたします。

【委員】

皆さん、こんばんは。武蔵野市の主任児童委員をさせていただいております藤野と申します。よろしくお願いいたします。

【委員】

子ども家庭部長の勝又です。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、これ以降の進行につきましては、箕輪委員長にお願いしたいと存じます。

委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、本日は、皆様のお手元に送付しております次第に沿って進めさせていただきます。

まず、きょうの会議の終わりの時間は何時でしょうか。

【事務局】

午後7時30分ということで皆様にお知らせしております。

## 2 議事

- ・「令和4年度すくすく泉事業実績（見込）について」
- ・「令和5年度すくすく泉事業計画（案）について」

【委員長】

では、議事に入りたいと思います。「令和4年度すくすく泉事業実績（見込）について」と「令和5年度すくすく泉事業計画（案）について」です。まず、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、審議の進め方についてご説明いたします。次第の進行表をご覧ください。

これから、事務局より令和4年度補助金の執行状況及び令和5年度の収支計画についてご説明いたします。その後、「いずみの会」が会議に参加します。施設長ほか団体の皆様に自己紹介をしていただいた後、本題に入ります。

まず、団体から、資料2から4により「令和4年度事業実績の概要」、資料5、6により「令和5年度事業計画の概要」を説明していただきます。また、委員の皆様いただいた質問については、メールでお送りした資料7「委員事前質問一覧表」のとおり、既に団体より回答をいただいておりますので、本日の説明は省略させていただきます。

その後、各委員の方々から団体に対して質疑を行っていただきます。質疑は7時10分ごろまでを予定しております。質疑の後、団体は退席いたします。

団体が退席した後、審議を行っていただきます。ここでは、今年度補助事業が適切に実施されているか否か、次年度の事業計画について問題や課題がないかを審議していただきたいと思っております。また、必要な意見を付すべきか否かという点についても審議していただければと思っております。

それでは、令和4年度補助金執行状況についてご説明いたします。資料4「令和4年度実績・すくすく泉事業資金収支計算書（見込）」をご覧ください。

令和4年度は当初予算に基づき、市より1,467万2,600円を年4回に分割して交付しました。市が交付した補助金に対する実績見込みは、記載のとおりでございます。補助金の対象である、ひろば事業及び一時預かり事業の収入は1,965万6,040円、支出は1,915万7,435円、収支差額49万8,605円を見込んでいます。この差額は100万円を超えないため、令和5年度に繰り越す見込みです。

続いて、資料6をご覧ください。「令和5年度予算・すくすく泉事業資金収支計算書（案）」と記載されている資料でございます。

令和5年度に市が交付する補助金は1,449万2,000円です。また、その他補助金等の内訳は説明欄に記載のとおりとなります。補助金の対象であるひろば事業及び一時預かり事業の収入は1,947万8,605円、支出は1,898万円を見込んでいます。

事務局からの説明は以上でございます。

#### 【委員長】

それでは、いずみの会に入室していただきます。

<いずみの会入室>

**【委員長】**

いずみの会の皆様、こんばんは。よろしくお願いいたします。

最初に、自己紹介を簡潔にお願いできますでしょうか。

**【いずみの会】**

皆様、こんばんは。理事長の近藤でございます。今日はいろんなご意見をいただけたと思います。よろしくお願いいたします。

**【いずみの会】**

NPO理事の種田と申します。よろしくお願いいたします。

**【いずみの会】**

すすくすく泉施設長の上田です。よろしくお願いいたします。

**【いずみの会】**

すすくすく泉の保育の施設長の関と申します。よろしくお願いいたします。

**【いずみの会】**

いずみの理事の汐見和恵です。よろしくお願いいたします。

**【いずみの会】**

理事の栃折暢子です。どうぞよろしくお願いいたします。

**【いずみの会】**

理事の阿部陽子です。よろしくお願いいたします。

**【委員長】**

それでは、資料2から資料6までの説明をお願いいたします。この後、質疑応答の時間がありますので、説明を簡潔にお願いできればと思います。なお、資料7の事前質問一覧については、ご記入いただいたものを各委員に送付しておりますので、特にご説明は不要です。

では、ご説明のほど、よろしくお願いいたします。

**【いずみの会】**

では、実績報告を私からお話しさせていただきます。「事業理念」、「事業内容」、「新型コロナウイルス対応」までは変わっておりませんので、読んでいただければと思います。

「事業効果・波及効果」について、特にお話をしたいと思います。

「子育てひろば事業」から始めます。「子育てひろば事業」は、今年度は、「夫婦、子育て仲間、多世代交流…共に子育てを楽しもう」と「子どもの発達についてみんなで学ぼう」

の2本を立てて、これを意識しながら、いろいろなプログラムを組んだり、日常のひろばを進めてきました。

下に『Tomony』（月2回）」と書いてあるものが特に新しく始めたプログラムで、お父さんたちも参加しやすいように、土曜日にお父さんたちが参加できるプログラム、また、家族で参加できるプログラムということで、講座ですとか、楽しめるイベントですとか、そういったものを月に2回企画して進めてきました。お父さんたちがなかなか体験できないベビーマッサージとか、離乳食講座とか、そういったところをお父さんをメインに進めてきました。これはなかなか好評で、実際やってみたら物すごく盛り上がり、いい会になりました。

コロナ禍で、例えば離乳食講座も人数制限されて、お父さん・お母さんどちらかお一人参加とされてしまうと、どうしてもお母さんが参加されるということがありまして、実は自分たちも興味があって出たかったんだという声もありました。ベビーマッサージとか手遊び、わらべ歌を歌ったりということも、なかなか気恥ずかしくてお父さんができなかったところを、お父さんの得意な曲を1、2曲つくって持ち帰ってくださいという話で、張り切って後日お家でやっている姿がありましたと、後でママたちから報告がありました。それがお父さんが中心になる企画です。そして、防災の話ですとか、みんなで公園を利用してピクニックをしたり、コンサート、家族で楽しめるようなプログラムもやりました。

最近では、保育園が決まった家族に対して、先輩保育園パパ・ママたちが座談会ということでお話をしてくれる会をやり、これもなかなか好評でした。家での役割分担の話から、夕食のメニューだとか、例えば「ルンバは買いです」とか、そういう具体的な話をすごくしてくれて、気負わずに最初から1週間分の下ごしらえをしておこうとか、頑張らなくていいよ、お父さん・お母さんが笑顔でいられるような計画を夫婦で立てましょうねと先輩たちに言ってもらって、すごくほっとしたという感想がありました。

もう一つの、発達についてみんなで学んでいこうという話ですが、「すくすくタイム」を週に2回やってきました。これは発達障害とか定型発達とか分ける話ではなくて、子育て中には子どもの発達にみんな興味があるよねということで、みんなで学んでいきましょう。そういう中で、ちょっと不安なことがあったら話し合っていきましょう、遊びながらトランポリンをやってみたり、細かい手作業でシールを貼るのをやってみたり、そんなことをしながら発達についてみんなでお話をしていきましょう、そういう時間でした。片栗粉スライムも物すごく盛り上がり楽しかったです。こういったものから、子どもの発達

に興味を持ち、何で汚いものを何でもなめちゃうのかなとか、何で人を押ししてしまうのかなとか、そういった話もお母さんたちとできて、とてもよかったと思います。

「ひろばで食べよう」ということで、4月からはゼロ歳、1歳の離乳食については解禁にしてみました。ランチタイムですね。コロナ禍で生まれて、コロナ禍で育っているの、ほかのお子さんが食べているものとか、食べている様子を見たことがないという方たちが多かったの、これをやることによって、最近食べないのよねとか、こういう工夫があるのよねという具体的な話ができたり、また、悩みとかも、スタッフが直接見てアドバイスができるので、これは有効だったなと思います。

次に、「利用者を活かす」です。こちらから一方的にいろんなサービスとかプログラムを提供していくばかりではなくて、利用者の中にもちょっと得意なことを持っている人たちがいたりして、そのお母さんたちを先生にして、みんなで編み物をやったりしました。ヨガの先生というのも、一時預かりでずっと利用されていて資格を取った方が、実際に皆さんの前で教えてくれるみたいなこともやりました。

また、ちょっとなじみにくいようなお母さんがいたんですけど、よく話してみたら、そのお母さんは手芸が得意だったので、その得意なことを生かして、みんなでパッチンドめづくりをしてもらって、それによってすごく知り合いがふえて、ここのひろばでとてもなじんで楽しく友達もできた、そういう流れに持っていったこともありました。

あと、15分だけひろばとつながるオンラインの「15（いちご）ひろば」をずっとやっていたんですけども、今年度は利用がゼロでしたので、来年度はまた違う形でやろうと思います。オンラインでひろばを楽しむというよりは、実際に来たいんだな、対面でかわりを持ちたいんだなと感じました。

「こらぼのコミセン親子ひろば」は、年度の途中で電話予約からネット予約になって、なかなか人数が増えなかったんですけど、今はネットのほうが多分使いやすいということで、ほぼ毎回満員になっています。

「一時預かり」は、どんどん利用が増えていて、ここには年末に増えましたと書いたんですけど、3月の今はもっと予約がとれない状況になっています。本来、家族の体調不良でも預かることになっていたんですけども、そこがずっとコロナで、ご家族に体調が悪い人がいたら預かれない形になっていました。そこは私たちとしてはジレンマがずっと続いてきたなということで今年度は運営していました。

あとは読んでいただければと思います。

保育にかかります。

### 【いずみの会】

保育から報告します。

昨年度までと違うところを中心にお話ししようと思います。あっちこっちが一緒になった説明になるかもしれないんですけども、おつき合ください。

A型に移行して1年目の今年だったんですが、4月の最初に、採用していたはずの保育士が来ないという大変な事態に陥り、でも、その後、保育士を一人採用して、何とか無事に乗り越えることができました。おかげさまでありがとうございました。

保育の体制が、一人採用したので、いつもいる先生が5人になり、特に今年度については、発達とか家庭的に配慮が必要な子どもがいらっしゃったので、安心して過ごせる日常ということがすごく大事な年だったので、常勤の先生が増えて本当によかったなと思います。

また、今年度は一人ひとりのニーズにあわせた保育を追求してきた1年でした。もう一つは、じっくり遊び込めるように、環境とか時間とか保育体制を工夫してきました。遊びたい場所、遊びたいことを一人ひとりが自分で決めて過ごせるように周りの先生たちが動く、完全にその体制になれた年でした。そこが大きく変わってきたなと思います。

家庭との連携というところでは、コロナ禍で保護者同士がおしゃべりする機会がすごく減っていることをどうやって補おうかということ工夫しました。今年度初めての試みで、ひろばの子育て講演会というのがあったんですけど、そこに便乗して、保護者が参加することや、保育園に通っている子が土曜日はひろばに行こうみたいな形で、保護者がひろばの親子とお話ができるようにということを企画してやりました。特にひろばの中で、ほかのお子さんと自分の子どもを実際に目の前で比べながら見ることができる。そうすると、自分の子どものよさに気づいたり、ほかの保護者と話し合ったりする機会があって、自信になったなということを感じる保護者の方もいらっしゃいました。

「研修について」です。今年度は「ひとつの対応について総合的に考えてみる」ということをテーマに、自分が子どもに関わったエピソードをそれぞれ記録して、改めてその子の発達とか、その子の背景にあること、自分の対応を振り返って、さらにみんなでそれを持ち寄って分析をしました。いつもなら、けんかのときなんかは、つい声をかけがちになっちゃうんですけど、見守れた。その見守れるというのが私たちの課題でしたが、見守れたという事例が意外に多くあった。そこで見守っていたら、子どもが自分たちで解決



することができたとか、こういう展開があってびっくりしたというところを実感して、見守れるような保育にステップアップしてきているなど思っています。必要などころは入るんですけども、見守れるという課題を少しずつクリアしてきているなど思えた研修でした。

また、今年度と昨年度は、食事に課題がある子、食べることに気持ちが向かないとか、かんで飲み込むのに課題があるとか、食べるものに過敏で、白米しか食べないとか、そういう課題のある子が複数いて悩んできました。改めて「食」を考えようという気持ちが熟してきて、講師の先生のお話を伺って、結局は子ども一人ひとりの状況にあわせた食事なんだねというところを確認して、これから協力して工夫していこうという方向性が見えました。

あと、ひろばが学んでいることに便乗してなんですけど、子どもの発達と感覚統合という研修も受けて、子どもの読み取りがさらに多面的になっていくかなと思っています。

1年を終えてみて、雨降って地固まるといいますか、新しい先生たちが入って、いろんな保育をしてきた先生たちだったので、それを持ち寄って保育に試行錯誤があったり、考え方がちょっとどうなんだろうと思ったり、そういう迷いの中でやってきて、子どもの姿を通して思ったことを出し合って話し合いを重ねる中で、大事にしたい軸が共有されてきた1年かなと思います。

そのほかについては資料をご覧ください。

#### 【いずみの会】

続いて、「達成目標に対する評価・反省」のところに行きます。

いろいろできてきたところも、ちょっと足りなかったなというところもあるんですけども、ちょっとうれしかったのは、3事業の連携みたいな形になるんですけども、おんぶ講座とかパパ講座とか、そういうことなんですけど、保育のほうの保育士さんがひろばでイベントの講師を務めるということを幾つかやりました。あと、初めての保育園生活の先ほどの座談会にも、保育の保育士さんに保育園側の話として一人入ってもらいました。そういった感じで、保育園が隣にあることでできた講座も今年は充実してきたかなと思います。それから、アドバイザーの先生が子育て講演会をしてくれたということもありました。

反省点としては、先ほどの Tomony のプログラムなんですけれども、月に2回、イベント事だとか、講座だとか、いろいろやったことが、スタッフとしてかなり負担だったなど

いうことです。すごくよかったのはよかったんです。お父さん参加はすごく増えました。家族参加も増えました。ただ、子育て仲間をつくるという目的と、地域とつながるという目的が思ったほどいかなかったなという反省点があります。来年度にまたそこをブラッシュアップして考えていきたいと思います。

もう一つは、発達のことをスタッフたちが話し合っていく中で、療育に通う親子さんが遊びに来てくれて、そこの対応をみんなで話して考えて対応してきたことで、そのお母さんがお友達を連れてきてくれてという形でどんどん増えて、今、療育帰りの子がたくさん遊びに来てれています。ちょっともめたりすることもあるんですけど、でも、すすくすく泉では落ちついて楽しく過ごせる。こういう場所になかなか行きづらい方たちなので、最初のころは、「うわあ」と大きい声が出てしまったり、何か取り合いになったりしたこともあって、そういったときにちょっと引いている周りのお母さんたちもいたんですけど、今は一緒に過ごすことが自然になっていて、とてもいい感じで、サポートし合えるひろばになってきたなと思っています。それはすごくよかったことです。

地域のつながりについては、関に渡します。

#### 【いずみの会】

先ほど上田から、地域のつながりについて課題という話もありましたが、コロナ禍で仕方のない面もあったかなと思います。ここから少しずつ再開していきたいなと思います。今回再開できたものから幾つか話をしていきたいと思います。

「昔遊びの日」が復活しました。地域の高齢者の方のいろんなわざとか、おもしろい遊びについて触れるということで、多世代の関わりができました。卒園生のお母さんたちも親子で参加してくれて、うちは今、小学校でこうなんですけどみたいな話をしてくれたりして、卒園した子たちのセーフティーネットにもなっているところもあるかなという新たな発見もありました。

そのほか、公園では、ひろばの親子とか、保育士の子どもたちが一緒に遊ばすし、地域の保育施設の子どもたちが来るし、小学生、公園ボランティアさん、犬の散歩の方とか、いろんな方がいらして、イベントじゃない日常の関わりができる、いいところだなと思います。その辺がまた膨らんでいくといいのかなというふうにも考えています。

あと、中学生の職場体験が復活しました。

地域の中で、「すすくすく泉」の名前を出してくれる利用者がきっかけで見学に来られたり、鍼灸師さんが新しい骨盤矯正のプログラムをこれからやっていこうなんていうつなが

りができたりして、すくすく泉が地域にだんだん浸透してきているなという感じがしています。

そのほかは資料をご覧ください。

#### 【いずみの会】

次に、「令和5年度以降の見通し」なんですけれども、具体的なところは、次の「計画」と重なるところが多いので、そちらのほうで詳しくお話しさせていただきたいと思います。

方向性としては、コロナ緩和の方向に行くので、できるところからもとに戻していきたいなと思っています。段階を経て、利用者さんたちが必要としているところはどこだろうということと、私たちが可能なおところはどこだろうと探りながら、緩和の方向に持っていきたいと思っています。

#### 【いずみの会】

保育は、「計画」で詳しくお話しさせていただきます。

#### 【いずみの会】

それでは、今年度実績の数字を概略だけ説明させていただきます。お手元の資料の予算と見込の表をあけていただければ一番いいのかなと思います。

上は収入でございます。収入に大きな数字の変化がありますが、これは予算では組まなかった処遇改善が実際の数字の中で動いたり、その辺の変動が起きていることで数字の移動ができております。

一方、支出は、すくすく泉の数字の構成の約89%が人件費で、世間一般ではいびつな支出の構成ですので、人件費の占める負担が大きい状態になっております。ここにありますように、スタッフの給料も約500万増えます。処遇改善の数字を予算では見込んでおりません。といいますのは、キャリアアップ補助金等、金額が確定しないために、それを予算で見込まず、実績で計上するというのを今まで続けておりますので、それを励行しております。

あと、賃金が上がりましたのは非常勤で、これは非常に多いんですけれども、最低賃金を東京都の最低賃金にあわせたということ。また、今年度、小規模がA型を取得しまして、一人増やしたんですけど、保育の安定を期すために、もう一人、常勤を増員した。現在常勤5人で運営しているんですけども、常勤を増やしたことの消化がうまくできなかった、こういうことが人件費での赤字につながっている。それと、先ほど言いましたように、最低賃金の大量の増加があります。

一方、経費では、当初の計画を間違えたこともあるんですけど、ひろばで見た数字がちょっと多かった。実際、小規模の経費の負担が増えてしましまして、全体にはちょうどバランスをとるような格好になってしまったんですけども、予算と見込では約8万6,000円の減です。

全体的に言いまして、先ほど言いましたように人件費の増が多いものですから、それを含めまして、125万の赤字を見込んでおります。

以上です。

### 【いずみの会】

実績報告については以上になります。

続けて、令和5年度の事業計画に移りたいと思います。

「令和5年度に力を入れて取り組みたいこと」という部分に行きます。

先ほどからお話をしている土曜日のプログラムの Tomony は、月2回のうちの1回は、家族単位で参加されている方が多いので、講座とかイベントというよりは、その場に来ている人たちみんなで声を出して話し合っ、一緒に遊んでみたいなこと、人と人をつなげていけるようなプログラムをやって、もう一回は、今までのように講座とかイベントみたいな形で進めていこうと思っています。

発達についてみんなで考えるという「すくすくタイム」の時間は継続していこうと思います。

戻ってしまうんですが、Tomonyの中で、みんなでお話をする中に、防災の話毎回入れていこうと思います。以前、ママ部活みたいな形で、防災のことについて話をしようという時間を設けていたんですが、コロナになってから、おしゃべりをする時間がとれなかったのが途切れております。それを Tomony の中で復活させようと思っています。

先ほども言いましたが、オンラインのひろばをオンライン相談という形で、相談を受けられるような窓口をつくりたい。ひろばで15分つながるといところをやめて、そちらにシフトしていきます。

一時預かりについては、段階を経て時短しているところの時間を延ばして行って、人数が増えればいいんですけども、それがすぐにはできないので、そのかわりにキャンセル待ちを受けることとなります。

キャンセル待ちについては、仕組みを今つくっていますので、4月からは受けられるようになると思います。今までは、キャンセルが出たかどうか、何回か電話をかけていた

だいて、たまたま出ていたらとれるみたいな形になっていたんですけれども、お母さんたちがそのところでいっぱいキャンセル待ちを入れておけば、こちらから連絡をするという形になって、これからは少しとりやすくなるのかなと思います。

#### 【いずみの会】

事業実績の見通しの部分と重なるところもあるので、そちらを並べて、特に強調する部分を中心にお話しします。

昨年度は不適切保育が報道されて、本当に心が痛みました。ゼロ歳から2歳児というのは自我の芽生えがあって、拡大で、イヤイヤ期の真っただ中にある子どもたちですね。なので、どんな自分を出しても大丈夫とか、不安なときも受け止めてくれて安心できるという安心感が、情緒とか身体の発達など全ての成長発達の土台で、土台のところがいかに大事かというところを改めて確認しました。

来年度は、その認識に立って、ますますそれが充実するようと思っています。具体的な新しい試みとしては、児童票の発達の記録を見直していこうとか、ドキュメンテーションに挑戦してみたりとか、給食スタッフとともに食について新たに工夫していこうとか、環境は今年度も頑張っていたんですけれども、さらに工夫していきたい。保護者へのサポートを丁寧にとか、発達のこと勉強しているので、いろいろな角度から一人ひとりへの読取りをちゃんとしていって、一人ひとりにあわせた関わりをさらに進めたいと思っています。

あと、保育士の心と体の健康や余裕も大事だなと思います。業務の無駄を省いて、効率的に仕事をして、きちんとリフレッシュして、お互いが連携できる体制をさらにつくりたいなと思っています。

私たちの強みは、非常勤の先生たちに、力がある先生方が複数いらっしゃるということだと思うんです。なので、チームとして情報共有していって、どの先生も子どもたちに向けていろいろな話が深めていけるように、読取りが活かしていけるようにというところを強化していきたいなと思っています。また、新しいこととしては、ICT化を進めたいと思っています。

事業内容、その他については、資料をご覧ください。

#### 【いずみの会】

「中長期目標」に行きます。

中長期の目標については、変わりなく、少しずつ実現していっていると思っております。

特別には、支援者同士の連携というところをもっとつなげていきたいなと思っています。大分つながってきていると思うんですけど、市内のほかの拠点だったり、専門的な保健師さんとか助産師さんとか、地域の中で子育て支援をされているような方たちともつながっていききたいなと思っています。

課題としては、次世代のスタッフの確保ですね。10年たつと、初期メンバーがだんだん年をとってくるので、次の世代を探して育てたいなと思っている次第です。

そして、子育てひろばが充実することで、子どもを持つということに対しての不安をなくす。最近もニュースで、Z世代と言われている世代が子どもを持たない理由に、お金だけじゃなくて、大変そうとか、自分の自由がなくなるとか、やったことがないことだから不安だとか、そういった面が大きいというような話を聞きました。そのところで私たちがひろばをやることによって、子どもを持つことは大変なだけではなくて、かけがえのない宝物であって、子どもを持つことで体験できること、世界観とか価値観が広がるようになすごくすばらしい体験ができること、それがスペシャルなんだよということが伝わるとうれしいなと思っています。まずは、一人で、親の責任だけで育てるところを、手をかせるところはかすし、みんなで育てていこうよというふうになってくるといいなと思っています。これは中長期目標です。

「事業内容」に移ります。「事業内容」も、今までお話ししてきたこととかぶりますので、ポイントだけお話しさせていただきます。

「日常のひろば」の中で、子どもの食事時間、おやつを、カフェコーナーに限って解禁しようと思っています。今まで、ゼロ歳、1歳の離乳食だけに限っていたんですけども、それ以外の時間でも、カフェコーナーでは食べられるというのは以前の状態なんですけど、そこは以前の状態に戻したいなと思っています。あとは、午前中はゼロ歳、1歳だけというふうに年齢制限をしていたのを撤廃しようと思います。午前でも午後でも好きなときに来れるようなひろばにしたいと思っています。

そして、同居家族の体調不良に関してもチェックはしません。来る人が元気だったらという以前の形に戻したいと思っています。マスクのこととか、消毒はどこまで緩和するかというのは、全体を見ながら、話し合いながら、緩和の方向に持っていきたいなと思っています。日常的にはそういう感じですね。

「子育て相談」というのが私たちの課題で、なかなか場所がないので、みんながワイワイいる隅っこのところとか、ちょっとデッキに出たり外に出て話を聞くみたいなのはし

てきたんです。そこで話せる人はいいんですけど、もう一つ、オンラインで相談を受けられるよという窓口を増やそうと思っています。

あとは、今までもそうですけど、これからも、来ている利用者さんをお客様扱いではなくて、その中から何らかのキーマンを見つけて、いろいろな不安を持っている人たちに、役に立つ大事な人だよみたいなことが伝わって、ここが堂々とした居場所になってくれるような流れに持っていききたいなと思っています。

「コミセン親子ひろば」は今までどおりなんですけど、コミセンの定員に制限がなくなれば、もう少し人数が増えるのかなと思っています。以前は、何かの講師を呼んで講座をやるとか、そういうこともやっていたんですけど、コロナ禍で、その日に何人集まるかが不安で、1人か2人みたいなときもあったので、その予定をするということがなかなか難しかったですけど、来年度はまた復活させていこうと思っています。

「一時預かり」についても、変わらずにやっていこうと思います。先ほど言ったキャンセル待ちを加えていくということです。それと、一時預かりも、同居家族の体調不良には言及しないことにしていこうと思います。

オープンなひろばでの一時預かりなので、とても安心をしてくださっているんですけど、この間も、お家で見つかったんですけど、預かり後に体にちょっとひっかき傷みたいなのを見つけたお母さんがいて、報告をいただいたんです。本当にオープンな状態で預かっているの、例えば私たちが何かしたとか、そういう不安は全然ないですということで、もしかしてけんかとか、そういうことがありましたかみたいな話だったんですけど、私たちとしては連絡と報告を共有していたので、きちんとそこは説明ができたし、実際にその傷も本人がつけちゃったんじゃないかなということで話はおさまったんですけど、その辺の日ごろからの信頼関係みたいなのがそこで活かしたという出来事でした。

#### 【いずみの会】

「事業内容」は特に変わらないので、お読みいただければと思います。大事なことは先ほどお話ししました。

「3事業の相互の関わり方や、その他について」なんですけれども、3事業は分離して運営されているものではなく、それぞれ専門性を軸にしながら交流機会を持っているということで、それぞれの利用者には有益な支援を総合的に考えていきたいなと思っています。

そういうわけで、常勤スタッフを中心に運営会議や現場会議をやったりしていますが、そういうことも含めてやっていきたいと思っています。

**【いずみの会】**

以上です。

では、数字をお願いします。

**【いずみの会】**

それでは、予算（案）を説明いたします。先ほどと同じように、予算と見込が書いてある表をあけていただければと思います。

来年度も人件費構成が約 88%ありますので、同じような数字の構成になります。一番大きいのは小規模保育の補助金と保育料運営費、この2つをあわせて公定価格なのですが、これは令和4年度と同じ数字を使って計画いたしました。したがって、人件費のほうも、それに見合わせるような形で組んでいる部分がありますので、常勤職員の昇給がちょっと厳しいかなというような思いでおります。

あと、収入は、一時預かりが、コロナ禍で大分落ち込んだのが少し回復するような見込みで約 50 万多く見積もっておりますが、一時預かりの保育料も重要な収入源ですので、これも大きく期待していきたいなと思っております。

経費のほうは少し絞りまして、スタッフのほうも似たような数字で組んで、一応収支であわせる予算を組んでみました。

以上です。

**【委員長】**

ご報告ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移りたいと思います。委員の皆様、質問をお願いいたします。質問のある方いらっしゃいましたら、挙手をしていただけたらと思います。いかがでしょうか。

**【委員】**

ご説明ありがとうございました。私から、予算に関して1つお聞きしたいことがあります。

今ご説明があったように、処遇改善の収入を予算上見込んでいないので、人件費もその分減らしていますが、それはあまり現実的じゃないと思うんです。実際にその補助金が入らなかったら、給料を下げるんですか。

**【いずみの会】**

これは毎年このような組み方をしているんですが、補助金ですので、確定値を入れて見



通しをつくるんですが、その確定値が今のところない。こちらがまた数字を見込むというのも立場上おかしいことかなと思っておりますので、処遇改善の数字は入れておりません。

**【委員】**

であれば、参考値でもいいんですが、前年と同じぐらいの処遇改善の補助金を見込んだ場合は、例えば人件費が幾らぐらいになるとか、「注」でも結構ですし、そういうのを入れていただいたほうが現実的ではないかなと思うんですね。

**【いずみの会】**

そうなんですけれども、先ほど言いましたように、決まってない補助金をこちらが見込むというのも立場上おかしいなと思って、今まで入れていないんですね。そういったことが理由なんですけど、検討いたします。

**【委員】**

確かにおっしゃるとおりなんだけど、やや現実的じゃない面もありますので。

もう一つ追加でお聞きしたいのは、今期の見込みが赤字ですよ。

**【いずみの会】**

そうですね。

**【委員】**

それはどうなんですとかいうか、それで経営は大丈夫なんでしょうか。

**【いずみの会】**

今、数字が変わりますけれども、結果的には今までの剰余金で埋め込むという形になりますが、数字的には何とか進めることができるであろうと考えております。

**【委員】**

繰越しの剰余金を使うということですね。

**【いずみの会】**

そうです。

**【委員】**

そうすると、今度令和5年度が同じように赤字になってしまうと、経営的には苦しくありませんか。

**【いずみの会】**

一番大きいのは、先ほど言いましたように、小規模保育料が今年度の数字を使っておりますので、来年の見込みは全く入れておりません。したがって、それを反映してないとお

考えただけならばありがたいです。

**【委員】**

それも「注」で結構ですので、ちゃんと経営が継続できるような見込みというんでしょうか、そういうのもどこかに書いていただいたほうがいいかと思います。それがちょっと心配ですよ。

**【いずみの会】**

実際苦しいことは事実なんですね。今年度の数字を使うということは、職員の給料を上げられないということが実態ですから、給料を上げない状態で組んでおります。ですから、来年度の補助金が決まった段階でそれを新しく組むということになるんですが、それは検討いたします。

**【委員】**

わかりました。ありがとうございます。

**【委員】**

今の件に関して、市からのフォローみたいなことはないでしょうか。

**【委員】**

今の鶴川先生のお話ですけれども、私も同じことを質問しようとしたんですが、キャリアアップ補助金ですとか処遇改善費は、ある程度職員のキャリア、勤続年数とか年齢とかで決まっているので、予算を組む段階ではまだ補助金が確定してないのは事実なんですけれども、例えば人数が極端に減るといっているのでなければ、今年度ベースで予算を組むことは十分可能かなと思います。詳細はずれると思うんですけれども、制度はありますから、今年出たものが来年出ないということはないので、今年度ベースで組んでいただくのが一番妥当なのかなと思います。

もう一つ、昨年始まった1人9,000円分の単価で上げた補助金は……。

**【いずみの会】**

処遇改善臨時特例事業ですね。

**【委員】**

それは10月から公定価格に反映されていますので……。

**【いずみの会】**

12月から数字をいただいて、運営費のほうでお支払いいただいています。

**【委員】**

そのあたりも制度として変わっていますし、今年度実績がありますから、その実績をベースにして予算を組んでいただいて構わないと思います。そうしないと今、鶴川先生が言ったように、見た目、人件費がすごく下がっていて、これで本当に大丈夫なのと。これは表に出てしまうものなので、そのあたりは見せ方としても今年度ベースで組んでいただくのが一番妥当かなと思っています。確定したら、またそこで詳細を修正していただければよろしいかなと思います。

**【いずみの会】**

最終的に提出する予算のほうは修正をしていきたいと思います。

**【委員】**

よろしくお願いします。

**【委員】**

ご報告ありがとうございました。いつも丁寧にやったださって、すばらしいなと思っています。

1個だけ、ひろばのほうでもどちらでもいいかと思うんですが、コロナの中で第一子が生まれて、さらにコロナ禍で第二子というお家が結構出てきているんじゃないかと思うんですが、そういう方たちの特徴とか何か気になっていること、どんなふうにかかわっていらっしゃるか教えていただけますか。全然わからないまま、また二人目が生まれるのはどんな感じかなと思って。

**【いずみの会】**

確かにいらっしゃいます。そういう方たちは悩みがあまり表に出てこないんですね。それが当たり前になってしまっていて、本当はすごく大変なんだろうけれども、みんなきつと大変だから、自分も頑張らなくてはみたい。大変さを自分でわかってないというか、実感してない方が多いように感じます、その特徴としては。

どういうサポートをするかというのは、そこで話を聞きながら、それってすごく大変なことだね、頑張ってるね、私たちは以前はこういうふうにみんな支えながらできていたんだよ、そういうのが途切れてしまってあなたは大変だったね、これから少しずつもとに戻していくよみたいな話もします。日常のひろばの中では、そんな光景はよくあります。

**【委員】**

地域とのかかわりもこれからやっていきたいというお話もあって、大変心強いなと思っています。小さいお子さんが多いと思うので、妊婦さん、間もなく出産される方とか、そ

ういった関係で見学されたり、お話を聞きにいらっしゃる方もいるのかなと思いました。

もう一つは、Tomony ですか、お父様たちが大変集まってくださっているというお話を聞いて、どういった話に皆さん、食いつかれているというのは変ですけども、どういふことでこの集まりを大事に思っているのか。さっきわらべ歌の話がありましたが、お父様方は何に一番戸惑っているのかということがあります。

離乳食の話もあったんですが、ほかの子どもたちが食べているところを見たこともないお母様もいらっしゃるということなんですが、離乳食のことで何か困っていること、課題だなど思うことがあったら教えてください。

### 【いずみの会】

妊婦さんに来てもらうのが実は今すごく課題で、私たちだけじゃなくて市内の各施設で、どうやって妊婦さんにひろばに来てもらおうかという話題が出ているぐらい、コロナ禍で特に来てくれなくなりまして、そこはこれからどういふふうに呼び込んでいこうかな。来ていいよというプログラムはもちろんつくっているんですけども、なかなか利用につながっていない。たまに、すごく積極的な方が何人かはいらしているという状況です。

Tomony で、お父さんたちはすごく変わってきたと思うんですね。「パパ育休」みたいなのも結構取っている方もいらっしゃるし、利用が増えている中で、実はやりたかったという方がいらっしゃるんです。ベビーマッサージも、お母さんたちがやっているベビーマッサージは毎月やっているんですが、そこに参加するのはちょっと恥ずかしい、だけど興味はある。「お父さんの」というのをぜひつけてくれ、「パパの」というのをつけたら参加しやすいという意見もお父さんの中から出てきて、「パパの」と書いてないと参加しにくいというので、大きく「パパの」というのを入れてやっています。「パパのベビーマッサージ」、「パパの離乳食講座」みたいなことだと意外と集まってくれます。

そして、その中でどういったところに食いつくかというお話があったんですが、やっぱり理屈です。わらべ歌も、ママたちは、ただ「わらべ歌をみんなで楽しくやりましょう」と言うだけでいいんですが、パパたちはそこに発達の話、このわらべ歌がどういふ効果、刺激につながるかみたいな話をちょっとずつ入れていくと、ホーッとなって、家でも一生懸命やってくれるようになります。そういう感じでやっております。

それと、離乳食がこれで合っているのかどうか全くわからないという声がありまして、家で YouTube を見たり、本を見たりということを進めてはいるけれど、実際にこのあげ方で私は合っているのだろうかとか、少し食べてくれないとどうしていいかわからないみた

いな話も聞きましたし、ほかの子がどういうふうにやっているのか、例えば食べ散らかしていたりするの、ほかの子も同じだよというのがわからないということで、実際に見たら、ああ、うちもうちもみたいなところからちょっとほっとしたり、うちはこんなふうにしたら食べたよとか、そういうのを見ることもいいのかな。

あと、ずっとマスクをしていたりするので、お口の動きとか、あまり大人と楽しくわいわい食事をするというのもないのかなと思ったりもしています。そういうところで、食べることへの子どもの意欲が少し薄れている感じはしています。

**【委員】**

先ほどの妊婦さんの件ですが、伴走型相談支援が始まっていると思うんですが、第2回の8カ月のところなんかは拠点でという感じとか、まだ武蔵野市は決まっていないんですか。世田谷は、希望があった方は利用者支援のコーディネーターが、その人の近くのひろばとかで面談したりということが早々に決まっていて、ガイドの原稿なんかもつくったりしているんですが、その辺はどうでしょうか。

**【委員】**

今の伴走型の考え方ですが、武蔵野市の場合は今、拠点というところではなくて、健康課のほうで、主に助産師さんが「こんにちは赤ちゃん訪問」で伺っていますので、それが2回目の訪問という形になっています。位置づけとしても、一番初めは母子手帳の交付から始まりますけれども、その後は生まれてからということになります。そこは助産師さんが伺ってやる形になっているので、拠点の中で伴走型の支援は今のところはやっていないという状態です。

**【委員】**

地域につながるというところは、あまり計画されてないということですね。わかりました。

**【委員】**

ご報告ありがとうございました。それぞれの事業についてすごく努力されて、充実した活動内容になっているなというのを感じました。例えば子育てひろば事業においても、Tomonyで父親だったり家族での参加ということで、いいコミュニティがつけられているなと思いましたし、小規模保育事業のほうでも保育士の質の向上をそれぞれが実感されているということで、保育士の職場としてもいい環境だなと思いました。

子育てひろばでは、手芸が得意なお母さんに講師をお願いするなどして、いわゆるサー

ドプレイスとしての役割も果たされているんじゃないかなと思ったんですけども、先ほどもちょっと出ていたんですが、例えば「パパの離乳食講座」に本当は出たかったんだという声とか、どうしたら出やすくなるのか、そういった利用者の要望とか声というのはどういうふうに聞いているのか。そういう機会を特別に設けたり、利用者さんのニーズを吸い上げるのは、どういうふうに行っているのかということが1点です。

もう一つ、反省点、課題としてスタッフの負担ということを挙げていたかと思うんですが、来年度に向けた取組みの中で、そういった負担に関する対策をどういうふうを考えていらっしゃるのか。

2点について教えていただければと思います。

### 【いずみの会】

まず、どうやって利用者さんのニーズを拾うかというのは、日ごろしゃべっている日常の中からしかないです。特に、遊びに来ますので、その中から、じゃこうこのことをやってみようかみたいな話になります。

お母さんが編み物を教えてくれる「あみ部」というのはどういうきっかけだったか、今思い出したんですが、「高校のとき、何か部活やってた？」という話から、運動系の人たちと文科系の人たちとが分かれたんですね。運動系の人たちは文科系の人たちが手づくりすることを、「えっ、尊敬する。私、何もできない」という話になって、そこから夏ごろだったか、「冬に向けて、子どものために帽子とか編めないかな」という話になって、「じゃ教えてくれる？」「いいですよ」となって、すごく不器用で私は何もできない、つくったことがないという人たちが、初めて自分の子のために帽子を編むというのをママ部活としてやろうという話になりました。

お父さんのほうも、それこそふだんお母さんが行っているベビーマッサージにお父さんが参加してもいいんです。誘ったら、「そんなの恥ずかしくて出れない」「じゃ、『パパの』というのだったら出れる？」という話になり実現したという感じです。

スタッフの負担は、実際すごく張り切って Tomony を2回やったのが結構しんどいという話が出てきて、それも考えてスタッフの負担を減らすために、Tomony の企画が1回になって、もう一回はここで、来た人たちみんなで手遊びをしたり、たまにはうんちくを入れ込んだ絵本講座のちょっとしたものやっつけていこうかな。それで準備したり、いろんな申し込みの受け付けをしたりとか、そういうのは省きましょうという感じで、話し合いながらこの部分はちょっと省いていこうねと。

でも、目的としては、去年できなかった家族同士をつなげることによってさらにつながっていくよね、みんなに声を出してもらって、しゃべってもらってという時間を毎月つくっていくのは効果があるんじゃないかという話になって、スタッフの負担も軽減するし、できなかったことがさらにできるということで、そこはみんなで話し合っただけでそういうふうになっています。

#### 【委員】

投書箱のようなものがあるわけではなく、ふだんから利用者さんとのいい関係性が築けているということかなと思いました。

あと、負担にしても、やる気があるうちはいいけれども、そっちが大きくなってしまったりどうしてもつらくなってしまったり、継続できなくなってきてしまうと思うんですけども、今伺って、それを工夫されているということでしたので、そういった形で継続できればいいかなと思いました。

あと一点だけ。資金計画ですけれども、寄付金収入があって、先ほど決まってないものを見込むのはおかしいんじゃないかという話もちよっとあったんですが、この寄付金収入は、毎年継続して活動支援者さんが寄付してくださるというものなんですか。

#### 【いずみの会】

これは寄付団体が決まっております、毎年寄付が入ってきます。それを固定数値として計上しております。

#### 【委員】

わかりました。ありがとうございました。

#### 【いずみの会】

寄付金をくださる方ですが、ここの卒園生のお母さんがここの活動に賛同してくださって、卒園のときに何かできることはないかと。寄付という方法もありますみたいな話をしたら、毎年お誕生日のときに来て、寄付してくださるみたいな形になっています。

#### 【委員長】

ほかに何かご質問のある方いらっしゃいますでしょうか。

では、そろそろ時間もありますので、最後に質問というよりコメントというか、感想を私のほうからもお話しさせてください。

委員の皆さんがおっしゃっていたように、すごく丁寧に事業をしてくださって、また3つの事業を別々にではなくて、総合的に取り組んでくださっているところは本当にすばら

しいなと思いながら聞かせていただきました。

1点だけ。質を高めていこうという様々な努力などもしてくださって、本当にありがたいなという思いでいっぱいなんですけれども、一方で、さっきの Tomony の話のように、先生たちが息切れしないこと、子どもや保護者のためにも継続して保育を行っていくためには、先生方の負担だったり、そのバランスだったりという部分についても、いろんなことを来年も取り組んでくださるようなんですけれども、先生たちが息切れせずにそれぞれのお力を発揮していただいてというところで、工夫していただけたらなというのが感想です。

では、質疑を終了させていただきます。

いずみの会の方々、こちらでご退場ください。

本日はありがとうございました。

<いずみの会退室>

#### 【委員長】

それでは、いずみの会の説明、質疑応答を踏まえまして、審議に入りたいと思います。

補助事業が適切に実施されているか否か、事業計画は妥当か否かという観点からご意見をお願いいたします。

また、必要な意見を付すべきか否かについても、ご審議をお願いいたします。

#### 【委員】

事業については適正に実施されていると思います。これは市民の要望といいますか、今、保育以外の在宅の人とか、そういった子育てのニーズがすごく増えていますので、何か支援策みたいなものも考えていらっしゃるんじゃないかと思うんですが、もしあれば簡単に教えてください。

#### 【事務局】

事務局のほうから、すくすく泉への支援策というところでご説明できればと思います。

市のほうで令和3年度から、子育て世代包括支援センターという、ひろばも含めた形で、市としては 0123 施設と桜堤児童館にはなるんですけれども、地域への支援を強化しております。具体的には令和3年から、市内8カ所の常設の拠点については保健師が定期的に訪問して、保健師の相談という形での対応をしておりますし、その中でスタッフとも意見交換していて必要な対応をしているところでございます。

また、泉に関しては保健師による講座もありまして、今年度、市の子ども家庭支援セン



ターで巡回している保健師が2回ほど利用者向けに講座を行っておりまして、そこについては好評を得ているかなと思っているところです。そのほか必要な運営の支援等、特にすくすく泉については公の施設ですので、必要な施設整備を行っていきたいと考えているところでございます。

#### 【委員】

特に加算とか保育での改善以外には、あまりないということなんですかね。結構いっぱいいいっぱいな状況かなというふうに拝見したのが1点。

先ほど、妊婦さんとなつなげれないというお話をされていましたが、伴走型相談支援はすごくチャンスなのに、そこはすごく残念に思うので、何かいい方法はないのかなと感じます。妊娠期間になつなげたいという気持ちはすごくよくわかるので、今チャンスじゃないですかね。そこが専門職の訪問でいいのか。地域とのギャップがあり過ぎる気がしたので、そこについてはもちろん、すくすく泉のみならずだとは思いますが、地域のこういったすばらしいひろばだと私は思うので、全国でもいろんなひろばがありますが、すばらしいと思っていますので、ぜひそこに地域の妊婦さんをつないでいって、開かれて家族同士もつなげるとかやっているの、いいんじゃないかなとすごく思っています。

すくすく泉に対しての要望は特にはないです。

#### 【委員】

すくすく泉の事業に関しては、大変適切にされているなと感じました。あと、コロナ禍でなかなかできなかったこともあって、そこが少しずつ何かしなくちゃ、これでいいのかという思いがすごくあふれているように、今日は感じました。そこからだと思うんですが、事業の幅というんですか、対象とする相手が大変広いと思います。泉の中の事業、預かりと保育と、やっていらっしゃる柱のほかに、本当に様々な細やかなことが入っているなと感じています。

あとは今、松田さんがおっしゃっていた妊婦さんのことですが、昔で言う母親学級が保健の政策の中にあるのかなと。私も、コロナでなくなっていますが、そういったことが今どのようになっているのかなと思うんですけれども、保健師さんの訪問だけではなく、妊婦さん同士が自分の状況を話したり、直接話さないにしても、そういう情報を知ることができる。私と一緒にだわとか、そんな人もいるのとか、そういう話をなかなかできないと思うので、そういった情報が交換できるようなところがあるといいなと思いました。それをさらに泉さんに求めるのは難しいと思うので、別の話なんですけれども、できたら

いいなと思います。

あと、専門の方をお呼びして泉さんがやっていたりする、その謝礼とかは事業の中で払ったりしなきゃいけないんですか。そういうのがちょっと気になったんです。何か専門的なことをしようとした場合、そういうことが起きるのかなと思ったんですけども、たくさんイベントもされているので、そういった中で何かできることはないかなとちょっと感じました。

#### 【委員】

私も特に、すすく泉さんに対して意見するという事はないです。以前に比べて内容も充実してきたこととあわせて、報告も慣れてきたせいもあるのかもしれないですけども、皆さんすごく自信もあり、充実されているような印象も受けたので、すごく努力もされているし、充実した取組みをされているんだなというのは感じました。

1点、市にお伺いしたほうがいいのかなと思ったんですが、資料3の一時預かり事業の利用実績の表に「1日あたり平均利用時間」というのが出ています。ここから何を読み取るのかというのがちょっとよくわからなくて、1人当たりの平均利用時間を出したほうがいいんじゃないかなと思ったんですが、これは市の様式だと思いましたが、この意味を教えていただけたらなと思いました。

#### 【事務局】

ご意見をいただいたうえで、この入れ方につきましては、また見直しをしたいと思います。ご意見ありがとうございました。

#### 【委員】

実は先週、すすく泉に行って見てまいりました。非常に利用者も増えていて、それぞれの活動が活発に行われているという印象でした。報告書にもありますが、昨年から比べても参加者同士のつながりであったり、参加者が中心となるような取組みを仕向けるとか、様々な仕掛けが毎年ますますやられているなという印象で、とても充実してきているなと感じています。また、3つの事業がありますから、その3つの事業の特徴で個別ではなくて、それぞれがつながりを持ってやるということもできてきているのかなと思います。

また、今年度は保育のほうはA型に移行したということと、新たに保育士が雇用されたことで、保育の体制もすごくしっかりしてきたという印象でした。保育のほうを見せていただいたんですけども、10人を年齢別じゃなくて統合的な保育をやっていて、そのあたりも保育士一人ひとりがしっかり共有しながら、場面に応じて対応できており、保育に

対する考え方も非常にしっかりしてきているなど感じました。全体的にはとてもよくやられているなどと思います。

会計の部分については、先ほども申し上げましたけれども、一定程度決まったものはありますので、そこはまた団体ともお話をしていければなど思っております。

**【委員長】**

皆様からいろいろご意見をいただきまして、私のほうでも皆さんがおっしゃっているように、特に今年1年、コロナでそれまでできなかったことも含めて様々なことに取り組みれたり、そこで満足せず、もっとこんなことをしていきたいということが出てきているところだったり、すすすく泉さんについては本当に素晴らしいことをしてくださっているので、事業に関しては特に何かをお伝えすべきことはないかなと思っております。

皆様からもお話があったように、いろいろな取組みが増えてきている分、もしかするとかかるお金も増えてきているところが負担もあるのかなと思うので、そのあたりが市として補助金等をどう考えられるのか、少しまたご検討いただけるといいのかな。すすすく泉さんに対してというよりも、武蔵野市において考えていただくことができればありがたいなど思った次第です。

では、まとめをしたいと思います。

まず、今年度の事業実績と次年度の事業計画については、「令和4年度において事業計画に基づいた事業を実施していること及び令和5年度について妥当な事業計画が立てられていることを確認した」ということでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

**【委員長】**

ありがとうございます。

続いて、意見ですけれども、前回は保育人材の確保の話が出ていたんですけれども、今年はいろいろトラブルがありつつも、9月に1人確保できたということですので、特になしということよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

**【委員長】**

ありがとうございます。

それでは、委員会の意見として次のようにまとめたいと思います。

「令和4年度において事業計画に基づいた事業を実施していること及び令和5年度につ

いて妥当な事業計画が立てられていることを確認した」という形にさせていただきます。

続きまして、次回の委員会の開催時期ですが、次回また1年後の令和6年3月ごろに、その時点での前年の実績と次年度計画の評価をあわせて行いたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、次回は令和6年3月ごろの開催とさせていただきます。

以上をもちまして、審議が終わりました。

### 3 その他

#### 【委員長】

それでは、次第3「その他」に移ります。事務局からお願いいたします。

#### 【事務局】

事務局から連絡事項がございます。

議事要録につきましては、でき次第、今回の開催通知と同じご連絡先にメールでお送りさせていただきます。内容をご確認いただき、ご自身の発言など修正すべき点がありましたら、事務局までメールでご連絡をお願いいたします。修正を反映した後に、市のホームページで公表いたしますので、ご承知おきいただければと思います。

また、会議の報酬につきましては指定の口座に後日振り込みをさせていただきます。

次回の委員会ですけれども、コロナ禍の対策が5月には5類に移行するという状況もありますので、久しぶりに対面も検討しておりますので、お忙しいこととは思いますが、また日程調整等ご協力いただければと思います。

最後に、この会議に関しまして、何かございましたら、子ども家庭部子ども子育て支援課までお問い合わせをお願いいたします。

以上です。

#### 【委員長】

皆さんのほうから、ほかに何かございますでしょうか。——よろしいですか。

### 4 閉 会

#### 【委員長】

それでは、以上をもちまして本日のすくすく泉事業採択・評価委員会の会議を終わります。皆様、お疲れさまでした。

以上